

医療ルネサンス No.7248

治療できる「認知症」

5
3/45 ぼん

水頭症「手術で歩行軽く

認知機能の低下をもたらす病気に複数かかることもある。神奈川県Dさん(79)は認知症のほか、特発性正常圧水頭症の診断を受けた。

この水頭症は、原因は分からないが、脳内に脳脊髄液がたまる病気だ。主な症状として、歩行障害や尿失禁、認知機能の低下などがある。高齢者の100人に1人がなるとされる。手術で症状を軽減できるが、見逃されていることが多い。

Dさんに尿失禁が出始めたのは約10年前。妻(75)とよく出かけていたが、トイレの心配が増えた。遠出が減り、気力が落ちた。認知機能の低下を思わせる行動も見られるようになった。

ある日突然、「機械がおかしい」と言って、パソコンを買い替えた。元技術者で操作はお手の物だが、その日を境に触ろうとしなくなかった。妻は「使い方が分からなくなったのだと思う」と話す。

6年前、頭痛で自宅近くの病院を受診した。検査をした脳神経外科の医師は「頭に水(脳脊髄液)がたまっていく」と、正常圧水頭症の可能性を指摘した。診断のため、腰に針を刺し、脳脊髄液を少量取り出す検査をした。

この検査で尿失禁などが改善すれば、手術を検討されるが、症状に大きな変化はなかった。手術は見送られ、物忘れなどの症状から認知症の薬が処方された。

負担は大きいが、手術を行うかどうかを正確に判断するため、多量の脳脊髄液を抜いた。その結果、退院して1週間後には、一時的にだが歩いてトイレに行き、排尿できるようになった。

「今なら元の生活に戻れるようになるかもしれない」。堀さんの勧めで、脳に管を入れ、たまった脳脊髄液を心臓付近の血管に流す水頭症の手術を受けた。症状は改善し、Dさんは今、日課となった妻との散歩を楽しんでいる。ただ、一時は良くなった認知機能は、徐々に低下している。

最近、特発性正常圧水頭症と認知症を合併する人が多くという研究報告が出ている。堀さんは「この水頭症と認知症が一緒にある場合、手術をすることで、認知機能が良くなる可能性もある。見逃されやすい病気なので、多くの人に知ってもらいたい」と話している。



自宅の庭で妻と語りつDさん(左)。「歩くのが好き」と笑う

Dさんは翌17年、堀さんが常勤する森山記念病院(東京都江戸川区)に入院し、検査を受けた。体への

(影本菜穂子)
(次は「みんなですポーツ栄養」)

くらし 家庭